平成３０年度大学コンソーシアム沖縄 運営委員会（第３回）議事概要

○日　時：平成３０年１１月２９日（木）１５：００～１６：４５
○場　所：琉球大学　地域国際学習センター　３階　３０４学習相談室
○出席者：新田　早苗 事務局長（琉球大学総合企画戦略部長）、金城　徹 委員（琉球大学総合企画戦略部地域連携推進課長、中田　竜次 委員（沖縄キリスト教学院大学・短期大学総務課長）、田代　真紀 委員（沖縄大学総務課長）、島袋　常義 委員（沖縄女子短期大学事務局次長）、比嘉　美昭 委員（沖縄国際大学事務局総務課長）、渡久地　寛 委員（沖縄県立芸術大学総務課長）、荻堂　盛淳 委員（名桜大学総務課長）、田中　克代 委員（沖縄県立看護大学総務課長）、冨田　和宏 代理出席（沖縄工業高等専門学校事務部長）、照喜名　一 委員（沖縄科学技術大学院大学技術開発ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ R&D 担当審議役）
○陪席者：大城　光雄（琉球大学総合企画戦略部地域連携推進課企画係長）

【要旨】
議題１．大学コンソーシアム沖縄の今後の活動について
① 新田事務局長から前回会議での議論について振り返りの説明があった。
② 各運営委員から、資料１に基づき各大学から提出された大学コンソーシアム沖縄実施事業マトリックス図表等について説明があった
③ 各運営委員からの説明後、意見交換を行った
④ 新田事務局長から、資料２に基づき、大学コンソーシアム沖縄の規程整備について説明があった。
⑤ 新田事務局長から、資料３に基づき、中央教育審議会で議論され答申が出された「２０４０年に向けた高等教育のグランドデザイン」の答申で述べられている「地域連携プラットフォーム」及び「大学等連携推進法人（仮称）」についての説明と総会に提案する大学コンソーシアム沖縄のコンセプトの明確化（趣旨・目的、主な実施事業）について説明があった。

【各大学等から出た意見等】
・沖縄大学では学長からの指示で単位互換を第１位に挙げた。合同入試説明会については、実施する時期を調整する必要がある。（沖縄大学）
・単位互換については、ICT を活用すれば、学生の移動の負担や、駐車場の問題もなくなる。今後、教員による検討委員会を立ち上げて、２年間程度かけてじっくりと検討することも考えられるのではないか。（新田事務局長）
・OIST が既に実施しているインターンシップ（広報・地域連携セクション）を活用することもできる。（沖縄科学技術大学院大学）
・現在の提案は、学長のみ相談している現状であり、まずは、大学コンソーシアム沖縄の総会において議論したうえで、学長からトップダウンで担当副学長に話しが降りていかないと、学内での議論が進まない。（沖縄国際大学）
・大学コンソーシアム沖縄で、検討委員会を立ち上げたとしても、そこで議論された内容を各大学に持ち帰った場合に、その件についての各学長からの明確な指示がなければ、学内で議論されることがない。その段取りづくりが必要。（新田事務局長）
・人事交流は、ハードルが高いと思うが、ホームページの充実や文科省通知文書の英訳文書の複原本データでの提供は、直ぐにでもできるものと思う。（新田事務局長）

（次頁へ続く）

・キャリア教育の合同実施も、スケジュールを見える化すれば、実施に持っていきやすくなるのではないか。（新田事務局長）
・単位互換については、その必要性や、提供できる授業科目についての現状の確認も必要ではないか。２年から３年のスパンの準備が必要であり、検討委員会を立ち上げるのを総会で提案するものではないか。（沖縄科学技術大学院大学）
・単位互換は、私大で実施して久しい。受講者が少ないのが現状であり、４年生が多く、やはり、移動時間がネックになっているのではないかと思う。（沖縄キリスト教学院・短期大学）
・先々作成するパンフレットには、企業からの寄付をいただく観点からも企業にとっても大学コンソーシアム沖縄との協働についてメリットがあることを追記していただきたい。また、総会への提案にあたって、今回の提案を行うに至った背景や経緯も追記した方が良い。（沖縄科学技術大学院大学）
・既に大学コンソーシアム沖縄に設置されている子どもの居場所学生ボランティアセンターに、非常勤職員が配置されているが、大学コンソーシアム沖縄では、規程が整備されていない。現在は、琉球大学の規程を準用している現状があるため、最低限必要なものを整備しなければならない。なお、出向の規程については、現在、琉球大学からの出向の可能性を探っている。仮に出向が可能となった場合に、規程がないから受け入れられないということがないよう、整備を進めていきたい。（新田事務局長）
・既に来年度の予算が決定しているため、来年２月の総会において大学コンソーシアム沖縄が実施する事業が提案され、その時に会費の額が新たに決められることになると、大学としては対応できない。現在は、前年度と同じ額で予算化している。（沖縄大学）
・会費を決定する場合には、自治体の議会や、各大学等の予算決定の時期も考慮にしなければならい。（新田事務局長）

【決定事項】
・今後大学コンソーシアム沖縄が実施する事業については、この運営委員会で挙げられた複数の事業を対象にして、特に優先順位を付けず、実施できるものから実現していくことを基本的なスタンスとする。
・大学コンソーシアム沖縄での実施事業及びスケジュールについて、各大学等から提出されたマトリックス図表を琉球大学が１本のマトリックス図表（案）として作成するので、各大学はそれについて意見を出していく。また、総会に提案する「趣旨・目的」の内容及び「主な事業」として掲げる名称についても意見を出していく。
・学生交流を、平成３１年度実施事業として位置づけ、名桜大学が毎年１０月３０日に実施している、世界ウチナーンチュ学生サミットを、名桜大学と連携し大学コンソーシアム沖縄に加盟する大学等の学生も参加して実施することを提案する。
・大学コンソーシアム沖縄の規程の整備については、平成３１年４月１日施行の規程については、琉球大学で案を作成しており、１２月以降の運営委員会で提案したいと考えている。

（以上）